

評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|------|------------------|-------|------------|
| 事業所名 | グループホーム サンきらら | | |
| 所在地 | 宇部市大字東岐波 4327-26 | | |
| 電話番号 | 0836-58-1263 | 事業所番号 | 3570200778 |
| 法人名 | 有限会社 ビーエス興産 | | |

| | | | |
|------------------|--|-------|------------------|
| 訪問調査日 | 平成 20 年 2 月 22 日 | 評価確定日 | 平成 20 年 6 月 17 日 |
| 評価機関の 名称及び所在地 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101 | | |

【情報提供票より】

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 1 月 7 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員計 | 18 人 |
| 職員数 | 21 人 | 常勤 8 人 非常勤 13 人 (常勤換算 15 人) | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------------|-----------|--|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 ~ 2 階部分 | |

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|--------|---|----------|-----|
| 家賃 | 月額 15,000 円 | 敷金 | 無 円 |
| 保証金 | 無 円 | 償却の有無 | 無 |
| 食費 | 朝食 400 円 | 昼食 400 円 | |
| | 夕食 400 円 | おやつ 0 円 | |
| その他の費用 | 月額 23,000 円 | | |
| | 内訳 光熱水費 12,000 円 日常生活費 10,000 円 通信費 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

| | | | |
|------|-----------|-----------|---------|
| 利用者数 | 18 名 | 男性 2 名 | 女性 16 名 |
| | 要介護 1 2 名 | 要介護 4 1 名 | |
| | 要介護 2 7 名 | 要介護 5 0 名 | |
| | 要介護 3 8 名 | 要支援 2 0 名 | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 74 歳 | 最高 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|-------------|---------------------------|
| 協力医療 機関名 | 医科 シーサイド病院 ひがしきわ整形外科クリニック |
| | 歯科 協立歯科診療所 ほかお歯科クリニック |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

運営推進会議に地域の方々がたくさん出席され、地域行事、防災、ホーム主催の運動会などにアイデアを出されるなど協力されており、利用者が地域の中で暮らしておられる様子が伺えました。1日2回以上の散歩や買い物、海岸でのワカメ採り、公園へのドライブ、日帰りランチ付入浴など外出支援に取り組んでおられます。ヒヤリはっと等の記録や分析シートでの事故防止の検討、法人看護師指導の勉強会、再発予防検討会議にての検討や一人ひとりの事故防止についても取り組んでおられます。

(特徴的な取組等)

常勤8名、非常勤13名の職員を確保し、日中で3人体制9時間の勤務体制を整えて、希望休、産休、育休、子育て中の職員の早出の交代支援など、働きやすい環境をつくりながら、利用者の状況や変化、要望に応じられる勤務調整に努められています。災害対策については、避難訓練の実施、消火訓練、食料等の備蓄に努めています。隣接の自治会館が地域の避難場所となっており、日頃からの地域の方々との話し合いや地域消防団との協力体制等で連携が図られています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

改善項目について話し合い、外部の苦情相談機関を重要事項説明書に明示するなど、具体的に取り組んでいます。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価表に全職員が記入し、管理者がまとめて自己評価をされています。評価の中で気づいたこと、見出された課題については、ミーティングで話し合い改善に取り組まれています。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、老人会長、民生委員(4人)、介護保険課職員、利用者、家族、病院関係者(院長、事務長、総師長、外来師長)、居宅介護支援員、職員など20名程度で2ヶ月に1回開催し、評価結果の報告、ホームの状況、行事、防災、散歩道の変更などの意見交換をして、サービス向上に活かされています。

(家族との連携状況)

利用者の暮らしぶりを写した写真、担当者のコメント、行事予定などを載せたホームだより、請求書を毎月送付しておられます。また、月1回以上は必ず家族に訪問してもらい、健康状態、金銭管理、職員の異動について知らせたり、家族からの意見や要望を聞くなど、連携が取られています。

(地域との連携状況)

自治会長、老人会長より地域行事の案内があり、利用者は参加しておられます。運動会、文化祭、地元の祭りなどに参加したり、ホーム主催の運動会や夏祭りに、幼稚園、保育園、他グループホームの利用者、家族、地域の方がたくさん参加しているなど、交流しておられます。春秋の地域の祭りには「お神輿」がホームに寄り利用者に喜ばれています。

評価結果

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|--|--|----------------------------------|
| <p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | <p>ホーム独自の理念の中に「地域や家族との結びつきを重視した運営を行う」という一文があり、日頃から利用者が地域の中で暮らせるよう地域との付き合いも多く関係づくりの支援をしている。また、地域密着型サービスとして、今の理念を基に明示、言語化する予定である。</p> | |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | <p>3ヶ所に掲示し、管理者、職員は理念の共有の徹底を図り、理念の実践に向けたケアに取り組んでいる。</p> | |
| | | | |
| 3 (7) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | <p>自治会長、老人会長から地域行事の案内があり、利用者は参加している。運動会、文化祭、地元の祭りなどに参加したり、ホーム主催の運動会や夏祭りに、幼稚園、保育園、他グループホームの利用者、家族、地域の人がたくさん参加しているなど、交流している。春秋の地域の祭りには「お神輿」がホームに寄り、利用者に喜ばれている。</p> | |
| <p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p> | | | |
| 4 (9) | <p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> | <p>自己評価書に全職員が記入し、管理者がまとめ自己評価とし、評価で気づいた課題についてミーティングで話し合い、改善に取り組んでいる。前回の外部評価の結果について話し合い、外部の苦情相談機関を重要事項説明書に明示するなど、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価をサービスの質の向上と考えている。</p> | |
| 5 (10) | <p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p> | <p>自治会長、老人会長、民生委員(4人)、介護保険課職員、利用者、家族、病院関係者(院長、事務長、総師長等)、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、ホームの状況、行事、評価結果の報告、防災についてや、散歩道の変更などの意見交換をしている。</p> | |
| 6 (11) | <p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | <p>介護保険課とは指導・更新、高齢福祉課、地域包括支援センターとはキャラバンメイト関係等で連携している。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------|---|---|----------------------------------|
| 4. 理念を実践する為の体制 | | | |
| 7 (16) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 利用者の暮らしぶりを写した写真、利用者のコメント、行事予定などを載せたホームだより(かもめ通信)を毎月送付している。月1回以上は必ず家族の訪問があり、健康状態、金銭管理、職員の異動等について知らせている。電話で利用者の声を聞いて貰ったり、連絡をしている。 | |
| 8 (18) | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示すると共に、苦情処理手続きについては契約時に説明している。運営推進会議や訪問時に、家族等の意見を聞いている。第三者委員は選任していない。 | ・第三者委員の選任と周知 |
| 9 (20) | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 常勤8名、非常勤13名で、3人体制9時間となっており、希望休を聞いたり、産休、育休、早出の支援などで働きやすい環境を作り、利用者の状況の変化や要望に応じて調整に努めている。急な休みなどには、常勤者が交代で対応している。 | |
| 10 (21) | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 2ユニット間での交代勤務もあるため、ユニット間の異動を年に2名程度行い、2ユニット全利用者の状況が把握できるようにし、利用者との馴染みの関係が保たれるよう配慮している。 | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 11 (22) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 新人研修から段階に応じた研修をしている。法人研修は1ヶ月に1回、ホーム内研修は2～3ヶ月に1回となっており、全職員が交代で参加し、外部研修は勤務の一環として常勤者全員に提供している。 | |
| 12 (24) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 山口県宅老所・グループホーム連絡会に入会していないが、研修に参加している。市内の1箇所のグループホームと市外3箇所のグループホームと情報交換、実習を通しての相互訪問、運動会への招待などで交流してサービスの質の向上に取り組んでいる。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|---|----------------------------------|
| <p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> | | | |
| 13 (31) | <p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p> | <p>本人、家族に見学してもらい、談話やお茶の時間を一緒に過ごして、他の利用者とも馴染みができるように支援している。訪問面談もしている。</p> | |
| <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p> | | | |
| 14 (32) | <p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p> | <p>支援する側、支援される側という意識を持たず、自分の家族という思いで、調理や掃除と一緒にしながら、包丁の研ぎ方、昔の言葉づかいや方言などを教わりながら、支え合う関係を築いている。</p> | |
| <p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p> | | | |
| 15 (38) | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>日々の関りの中で、会話や行動から把握に努め、利用者の思いや意向を個人の記録に記載して共有している。困難な場合には、家族との話し合いを大切に本人本位に検討している。</p> | |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p> | | | |
| 16 (41) | <p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p> | <p>本人、家族の意向を取り入れる介護計画に努めている。年1回は担当医、本人、家族、栄養士、2ユニットの介護計画作成者、管理者、職員参加で話し合い、介護計画を作成し、家族に確認してもらっている。</p> | |
| 17 (42) | <p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> | <p>評価を2ヶ月に1回すると共に、6ヶ月毎の見直しをしている。状態に変化があるときなど、必要に応じてその都度話し合い、見直ししている。</p> | |
| <p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p> | | | |
| 18 (44) | <p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> | <p>受診の送迎と付き添いのサービス、遠方からの面会には宿泊、食事の支援をしている。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期 待した 項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|---|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 19 (49) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | ホームの協力医をかかりつけ医としている利用者が殆んどで、受診の送迎や付き添い、訪問診療など適切な支援をしている。利用前からのかかりつけ医の場合は原則として、家族の付き添いだが、職員が代行することもあり、情報の伝達もされている。 | |
| 20 (53) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 終末期に向けた取組みはしていない。重度化や終末期のあり方について本人、家族、担当医、職員での話し合いをしていない。 | ・重度化、終末期についての家族との話し合い |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 21 (56) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。 | ホーム内研修で、本人を傷つけないような言葉かけを学び、日々の関わり方を管理者が点検し、プライバシーを損ねない対応をはかっている。記録などの個人情報の取り扱いにも注意している。 | |
| 22 (59) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 基本的な一日の流れは、おおよそ決まっているが、起床、食事時間、散歩コースや時間など自由で、日々その時々で利用者に合わせた支援をするなど、一人ひとりのペースを大切にしている。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 23 (61) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 利用者の好みを聞き、利用者と職員で調理、配膳、後片付けなどを共に行い、同じ食事を一緒に食べて楽しく過ごしている。 | |
| 24 (64) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 希望すれば毎日入浴できるが、ゆっくり入浴してもらうため、一日に3名として、15時～17時の対応をすると共に、清拭、シャワー浴の支援もあり、また、利用者が2人で入浴するなど入浴を楽しめる支援もしている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 25 (66) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | ゴミ捨て、調理、掃除、テーブル拭き、手すり拭き、洗濯物干し、ランプ、カラオケ、毛糸編み、野菜作りなどの楽しみごとや得意なことを発揮してもらうよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした場面づくりをしている。近くの温泉のランチ付入浴に出かけて楽しむなど、気晴らしの支援もしている。 | |
| 26 (68) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 1日2回以上の散歩や買い物、海岸でのワカメ採り、野菜作りなど一人ひとりの思いに沿っての外出の支援をしたり、年2、3回日帰り旅行(ランチつき入浴)に利用者、家族、地域住民と一緒に出かけ楽しんでいる。 | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | |
| 27 (74) | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | ホーム内研修で身体拘束について理解を深め、管理者がスピーチロックの指導をすると共に、常に抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 28 (75) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 日中は全ての出入口に鍵をかけず、見守りに努めている。また、利用者が外出した時には地域より連絡や協力を得ている。 | |
| 29 (78) | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | インシデント、アクシデントレポートに記録し、その都度話し合いをすると共に、1ヶ月1回分析シートで検討し、2～3ヶ月に1回は法人看護師の指導を受けている。また、法人の再発予防検討会議にて事故防止の取り組みをしている。個々についてはケアプランに記入し6ヶ月に1回話し合っている。 | |
| 30 (79) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 法人内研修や消防署の協力で救急救命法講習を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。年2回院内研修で勉強会を実施し、事故発生に備えている。 | |
| 31 (81) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年2回(昼、夜間想定)の訓練、地域の消防団との防災協定を結んでいる。避難場所は隣接の自治会館で、ホームは地域に協力できるよう食料の備蓄をしている。また、関係機関の通報体制の整備もできている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---|---|---|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 32 (84) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | 薬剤関係業務マニュアルや医薬品集があり、一人ひとりの薬の説明書をファイルし、全職員が薬の目的、用法、副作用などを把握している。薬はその都度手渡しし、服薬を確認している。2週間に1度、または必要に応じて医師にフィードバックしている。 | |
| 33 (86) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | 毎食後、職員の声かけや見守りで一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。毎日歯ブラシ、コップ、義歯の清掃、消毒、保管の支援をしている。訪問歯科医による定期的チェック、指導、治療を受け、報告も受けている。 | |
| 34 (87) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 個人記録に食事量、水分摂取量を記録して、おおよその栄養バランスの把握に努めている。買い物、差し入れ、好物のよって調理をした後に、献立表に記録して、法人の管理栄養士より指導を受けている。 | |
| 35 (88) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | 法人の感染予防対策委員会に1名が出席した後、全職員に研修を行い予防の取り組んでいる。対応マニュアルを作成して、うがい、手洗いの励行や手すりの消毒などを実行し、インフルエンザの予防接種もしている。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 36 (91) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 日当たりは良く、窓も大きく明るい共用空間で、調理の匂いや音、季節の花や飾り付けなどで、季節や生活感が感じられるよう配慮している。食卓やソファ、畳のコーナーで利用者は日中のほとんどを過ごしている。 | |
| 37 (93) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | タンス、椅子、テーブル、鏡台、仏壇、テレビ、ぬいぐるみ、生活用品など、使い慣れたものや好みの物を持ち込み、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるよう支援している。 | |

自己評価書

【ホームの概要】

| | |
|-------|------------------|
| 事業所名 | サンきらら |
| 所在地 | 宇部市東岐波字丸尾4327-26 |
| 電話番号 | (0836) 58-1263 |
| 開設年月日 | 平成 14 年 1 月 7 日 |

【実施ユニットの概要】 (1 月 15 日現在)

| | | | | |
|---------------|---------|---------|---------|--|
| ユニットの名称 | サンきらら1 | | | |
| ユニットの定員 | 9 名 | | | |
| ユニットの 利用者数 | 9 名 | 男性 1 名 | 女性 8 名 | |
| | 要介護 1 | 1 | 要介護 4 | |
| | 要介護 2 | 4 | 要介護 5 | |
| | 要介護 3 | 4 | 要支援 2 | |
| 年齢構成 | 平均 84 歳 | 最低 78 歳 | 最高 94 歳 | |

【自己評価の実施体制】

| | |
|-------|--|
| 実施方法 | 管理者・介護支援専門員・常勤職員・非常勤職員が参加。ユニット1・ユニット2は同一建物の一階・二階と分かれているが、管理者・介護支援専門員は兼任している。理念も「サンきらら」全体の理念としている。職員も運営上も一緒なので、自己評価も一緒に行った。 |
| 評価確定日 | 平成 20 年 1 月 15 日 |

【サービスの特徴】

- * 美しい景観に恵まれた、静かな海辺に佇む「サンきらら」
- * 同一敷地内に病院あり、汐風呂で有名な通所リハビリ有り
- * 介護職員の年齢も幅広く、どなたにも対応できる介護技術を有している
- * 一か月の利用料がお手頃価格
- * 皆様のご要望に応えられるように、常に努力、学びの精神を忘れず、介護支援の質の向上を目指している
- * 暖かい家庭的な雰囲気「サンきらら」

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印・(取 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|------------------------|---|
| <p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | | サンきらら喫茶・日帰り旅行・夏祭り・運動会には地域の方も参加され、春・秋の地域の祭りには「お神輿」が必ずホームに来られる。地域の方がボランティアとして行事に参加。 |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | | 日々新しい情報を得るので、その時にふさわしい支援もしていきたい。 |
| 3 | <p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p> | | ホーム内研修時に再度確認合っている。 |
| 4 | <p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p> | | 職員全員が内部・外部の研修会などに参加するようにしている。 |
| 5 | <p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> | | なかなか来所できないご家族には月に一度通信にてお知らせしている。(入居者の生活の様子の写真の毎月送る) |
| <p>2. 地域との支えあい</p> | | | |
| 6 | <p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p> | | 買い物はなるべく地元です。配達もお願いして、ホームへの出入りもして頂いている。 |
| 7 (3) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | | 散歩で利用する海岸のごみ拾いをする。防災の際、地域と連携を取り合っている。 |
| 8 | <p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> | | 地域連携運営推進会議などを利用して、もっと何が貢献できるかを話し合いたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|---|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 9 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 自己評価を実地することで、課題が分かりやすい、改善項目もはっきりと見えてくる。職員間での話し合いの時間をもっと増やしたい。 | 常勤者は割と取組が早いですが、非常勤者は出勤日数も少なく、消極的であるように思われるも、学ぶ機会をもっと作りたい。 |
| 10 (5) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 | ホームの状況・入居者の状況は毎回報告している。また出席者からの意見も頂いて、改善に向けている。 | 運営推進会議の当日の公休者の出席が少ないので、どのようにしたら全員参加できるか検討したい。 |
| 11 (6) | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 町内・老人会などセミナーなど受け持つことがあり、そのような時は市職員さんの協力を得る。常に何かとお世話になっています。 | 出来る限りFAX・郵送を控え、市職員さんに直接手渡すように心がけている。 |
| 12 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 | 研修で学ぶ機会はあるが、まだ当ホームでは取り入れていない為に身近に感じられないが、今後いつでも対応できるように、勉強します。 | ホーム内の研修にもっと取り入れて、職員全員で勉強していきたい。 |
| 13 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 暴力的な虐待は無いが言葉の虐待には常に気を配り、職員間に於いても入居者との接し方に間違いはないか確認し合っている。 | ホーム内に「監視カメラ」設置の勧誘があったが、一応ホーム内での勉強を重視していく事にした。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 14 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時には、十分にホーム内を見学して頂き、ホームの理念も理解して頂く。入居希望者・ご家族の疑問・質問にも丁寧に対応している。 | 体験入所も考えています。 |
| 15 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 入居者・ご家族からの苦情相談窓口を設けているが、常に入居者からは、職員が話を聞いて、不満・不便その他の意見にその場で対応・解決するようにしている。 | ご家族とは来所の時に報告したり、お尋ねしたりしている。 |
| 16 (7) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 健康診断の報告や主治医からの報告はそのつどご家族に連絡している。職員の異動等は年度初めの会議で報告 | 金銭管理については、一か月に一度収支報告にサインを頂いている。(個人のお預かり金について) |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|----------------|---|
| 17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 | 情報開示に関しては、すぐに対応できる準備はできています。ケアプラン等を立てるときはご家族とホームでの日常生活の記録を見て頂き、相談しています。 | | 情報開示しながら、アドバイスを頂いています。 |
| 18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 苦情窓口を設け、相談の内容に応じて、外部機関も準備しています。 | | 苦情はすぐに実態を調査して、双方より説明を聞き、改善・結果を双方に報告する。 |
| 19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ホーム内研修の時に運営に関する内容も取り組んでいます。 | | 外部からの講師に来て頂き、医療・接遇・運営等の話をして頂きます。 |
| 20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 各ユニットごとに規定職員は配置して、日勤帯・夜勤帯に職員が誰もいないという時間帯がないようにしている。 | | 夜間、入居者の急変の時など併設病院の協力を得る。 |
| 21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 2ユニットの職員が一年に一回、二人くらい、ユニットを移動して、常に2ユニット全員の入居者の状態が分かるようにしている。 | | なるべく職員の離職がないように、職員の働きやすい状態(条件)にしています。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 新人研修から始め、段階に応じた研修に参加しています。 | | 併設病院内研修・ホーム内研修・外部の研修にも順番に参加しています。 |
| 23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 | 60歳退職後の方も健康に応じ継続で勤めて頂いています。 | | 若い職員も経験を積んだ職員も、入居者には両方が必要だと思われるので、健康であれば67歳の職員も現在2名います。 |
| 24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | ホーム内の運動会には、他のグループホーム2施設と一緒にしています。 | | ホーム内の運動会にはグループホーム2施設と幼稚園・保育園・地域の老人会と一緒にしています。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|-----------------------|--|
| 25 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | | 職員の為に、春の日帰り旅行と秋の一泊旅行があり、一便・二便と分かれて、参加しています。 |
| 26 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 | | 常勤・非常勤に関わらず、同じように手当がつかます。 |
| 27 | 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 | | 折々に評価して頂いています。 |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 28 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 入居者本人から「相談があります」「話を聞いて下さい」と言われることもあり、そのたびに解決、改善するようにしています。 |
| 29 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 遠くにおられるご家族には、通信や電話で話をさせて頂いています。 |
| 30 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | 出来る限り、本人・ご家族の希望される介護支援を優先していきたい。 |
| 31 (13) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | | 職員全員が一人の入居者に対して、同じ方向性で介護支援に努めている。(職員によって介護サービスが違わないように) |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 32 (14) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | | 入居者の「子供」「嫁」「孫」との思いで、介護支援に当たるように、職員と確認し合う。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|----------------|--|
| 33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 面会に来られたご家族とも一緒に食事をしたり、お手伝いをして頂き、職員と一緒に介護支援に協力して頂いている。 | | ご家族も部活を一緒に行い、アドバイスなどをして頂けるようにしたい。 |
| 34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | ホームの理念の理解をして頂き、職員とのコミュニケーションを図り、ホームの行事などのお手伝いをして頂いている。 | | 「日勤の職員さんだけでは大変でしょう」とお手伝いして頂くことが多い。 |
| 35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | お盆・正月など自宅に外泊される方や外出される入居者が多い。連れて帰れないと言って、居室で家族で食事をされることもある。散発は必ず、行きつけの美容院に連れていかれる方もいる。 | | 昨年の日帰り旅行はある入居者さんの故郷の「豊浦方面」に入居者・職員・ご家族・地域老人会の方々、47名で出かける。 |
| 36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 散歩のときなどお互いに手をつないだり、ホーム内のソファなどに小グループで座って談話やTVを観ている。 | | 食道の席も年に三回(一学期・二学期・三学期)というようにくじ引きで決めている。 |
| 37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 一応ホームの方からの退去は言わないが、退所理由に当たる人には文書や面談を通して、より良い方向に解決してきた。 | | 退所理由に当たる人以外は、継続している。 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握 | | | |
| 38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | なるべく本人の意向に添えるようにしているが、ご家族との話し合いも大切にしている。 | | 入居者お一人お一人に関して、職員が皆で話し合い、その人が望む、またその人に適している介護支援ができるように努力している。 |
| 39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 入所時にご本人・ご家族より生活歴を聞くと共に、職員全員がご本人の意向や生活歴を大切にするように、努力している。 | | ホーム内研修時に入居者の介護支援の提供について話し合う。毎日、カンファレンスの時間が持てるように工夫をしたい |
| 40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | リハビリが必要な人・一人で歩行練習をする人・皆で散歩に行く人など個々の過ごし方を大切にしている。(申し送りノートや個人記録などを利用して、職員全員が状態を把握する) | | 日常生活・家事のお手伝い「当番」を決めているので、出来る限りお手伝いをして頂いている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|--|---|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 41 (16) | チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 本人とご家族の意向を取り入れた介護計画案を作り、担当医とも相談の上、再度ご家族に確認して頂き、職員全員に統一するように報告。 | 介護計画の話し合いは医師・を始め関係スタッフ・ご家族との都合の良い日になかなか決まらず、年に一回位しか行えない。これから時間の工夫をしたい |
| 42 (17) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 六か月毎に見直しをしている。期間中に見直しが必要となれば、そのつど、話し合い見直しをしている。 | ご家族に説明をした際には、必ず確認のサインを頂くようにしている。 |
| 43 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別に介護記録を記入、バイタル・食事量・水分量なども一緒に記入して、ご家族にホーム内の生活の様子を知らせる時などにも利用している。(担当医にも開示) | ケアの実践の結果の記入が毎日行われていない。(一週間に2~3日の記入)毎日記入できるように時間の工夫をしたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 44 (18) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 遠くから面会に来られたご家族とホームにて一緒に食事をして頂き、入居者の居室に泊まれることもある。(食費のみ実費) | 特別に部屋を準備できないが、入居者と一緒の部屋を使用させて頂くことになる。これから運営者を交えて考えていきたい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 45 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域連携運営推進会議を行うようになって、民生委員・文化・教育機関ボランティアの方とも頻繁にお付き合いができるようになった。警察・消防の方とも避難訓練等でお世話になっている。 | 緊急時の協力体制やマニュアルは準備できている。昨年、入居者の行方不明の際、警察地域の方々の協力を得る。 |
| 46 | 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 給食部の「喫茶」などを始め、ホームの行事の際にはホームを解放している。中学・高校の介護実習の受け入れもしている。 | 今後は何かの教室などの開催を考えている。 |
| 47 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 本人・ご家族の希望であれば、他のサービスの利用は可能。 | これから他のサービス活用についても学び準備していきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|---|----------------|--|
| 48 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | | これからも協働していきたい。 |
| 49 (19) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | | 併設病院・併設整形クリニック及び訪問歯科など自由に利用して頂いているが、他の病院にかかる時は原則として、ご家族の付添となる。 |
| 50 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | | 主治医が本人・ご家族に丁寧に説明をされている。 |
| 51 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | | 相談や往診をして頂いている。 |
| 52 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | | 併設病院の地域連携室の職員に入・退時の際の協力を得ている。 |
| 53 (20) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | | ご家族や担当医の意向に沿っている。 |
| 54 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | | 終末期は殆ど病院の方へ。今後はホーム内でのターミナルケアについて、職員全員もっと勉強し、検討していきたい。 |
| 55 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | | 介護情報提供書・及び看護情報提供書を送り参考にさせて頂いている。また直接、話し合うこともある。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|--|
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 56 (21) | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>ことある毎に職員全員で確認し合っている。またホーム内研修などでも勉強している。</p> | <p>研修などを通して十分に確認し合っている。</p> |
| 57 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>出来る限りそのように努力している。</p> | <p>本人の思いが通るように、問題が起きれば、即、話し合いを持ち、解決に努めている。</p> |
| 58 | <p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> | <p>家事労働は職員と一緒にやる。洗濯干し、掃除、買い物、そして調理の手伝いなどを行う。</p> | <p>一応は当番を決めているが、その時に応じて皆で行う。</p> |
| 59 (22) | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>お一人お一人のペースにてほとんど一日の生活支援を提供しているが、お客様の時など、少し我慢をして頂く時もある。</p> | <p>職員は認知症についての勉強を十分にしてその人に沿った支援をするように努力している。</p> |
| <p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |
| 60 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>ご家族が必ず馴染みの美容院に連れていかれる方・ご家族が必ず居室で散髪をされる方など決まっているが、そうでない方に関しては、月に一度、訪問サービスをお願いしている。</p> | <p>月に一度、介護ヘルパーの理容師さんがこられる。</p> |
| 61 (23) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>配膳・下膳は入居者の方のお手伝いがある。お肉・大根の嫌いな方、煮魚の骨が苦手な方、それぞれの希望に応じている。</p> | <p>お手伝いの当番が決まっているが、配膳・下膳はもちろん、台拭きや床掃除まで、入居者みんなで楽しんで行く。</p> |
| 62 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> | <p>本人の嗜好に合わせるように努力している。現在は飲酒やたばこを吸われる方はおられないが、身体的に害がないように、量などで調節していきたい。</p> | <p>医師との相談の上、飲酒の量と時間を決め、家族にも了解して頂いたが、本人が「そんなにまでしたくない」と言って、飲酒を止めてしまった。</p> |
| 63 | <p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> | <p>なるべく紙パンツ・パットを使用せず、早めにトイレ誘導を行うようにしている。食事やおやつなどで、排便を促すように工夫している。</p> | <p>便秘の方など、排泄のパターンを把握して、水分補給や、食事の工夫、体操などをして、なるべく自然に排便を促すように気を配っている。</p> |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|----------------|---|
| 64 (24) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。 | | 「入りたくない」という人もいるが、その時のタイミングでいつでも入浴できるように、準備はしている。 |
| 65 | 安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。 | | 居室の冷暖房もこまめにチェックして、リネンも清潔に心がけている。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 66 (25) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | 散歩に行き、海でわかめを採って干したり、他入居者のお世話を進めたり、職員にいろいろとアドバイスして頂いたり…常に楽しく過ごせるように努力している。 |
| 67 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | | ご家族と一緒にだと自分でお金を払おうとはしないが、ホームの買い物と一緒にいくとその場ですぐにお支払している。 |
| 68 (26) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | | 車に分乗して、常盤公園の「さる山」にリンゴやイモを持って行く。戸外にも連れ出すように計画を立てている。 |
| 69 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | | 季節の行事や、その時々催しには積極的に参加し、また行事部が年間の予定を立てている。 |
| 70 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | | ホームの事務所の電話は「0」発信なので使用が難しく、取り次ぐのみにしている。こちらからかける時は職員と一緒に公衆電話に行く。 |
| 71 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | お客様を大歓迎して、丁寧に挨拶をしておもてなしをする。職員の方が教えられる。 |
| 72 | 家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。 | | ご家族でゆっくりと過ごして頂きたい。食事代のみ頂いている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|--|
| 73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 | 日帰り旅行と運動会にはできるだけ参加して頂いています。 | | どうしても参加できない家族のみ、職員が当日の家族となり最後まで一対一の介護支援を行う。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | 抑制や拘束が行われないように、職員が常に確認し合っています。 | | ホーム内研修などを利用して勉強をしている。 |
| 75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 日中は居室をはじめすべての出入り口の鍵は掛けていない。 | | 玄関にはセンサーを付け、人や物に反応しチャイムが鳴る。その様子を事務室より、確認できる。 |
| 76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 常に所在や様子を把握するように心掛けている。夜間はトイレ誘導以外にも巡視をしている。 | | 夜間は警備の方に見回りをお願いしている。 |
| 77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | それぞれが持っている物については、取り上げる事はないが、それらを使用する時に見守っているように努力している。ご家族にも説明して、極力個人的には持たせないようお願いしている。 | | 編み物の好きな人はベッドの上で、編物をしています。裁縫箱を持っている人もいますが、はりの数などは職員が把握していますし、見守りながら、一緒に作業しています。 |
| 78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 常に事故防止に取り組んでいるが、早期の対処法にも力を入れて学んでいる。 | | お1人お1人事故防止の為に職員間での情報交換を重視している。 |
| 79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 併設病院の研修やホーム内研修で学んでいる。 | | いろいろな事故を想定して、もっと定期的に学びたいと思う。 |
| 80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 | 事故報告書やヒヤリハットと利用して、二度と同じ事故が起こらないように、努力している。 | | 医療事故防止委員会に出席して、他部署の事故についても学んでいる。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|----------------|---|
| 81 (31) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | | 地域の災害時避難場所が当ホームの隣の自治会館となっているので、出来る限りの協力をしたいと思っています。 |
| 82 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | | 医師とも話し合いの場をもっている。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 83 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | | 何時、どのような状態にあっても、職員全員が対処できるように、もっと学んでいきたい。 |
| 84 (32) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | | 薬局より、薬に関する資料を作って頂き、誰もが勉強できるようにしている。 |
| 85 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | | それぞれの排泄パターンを知り、便秘を予防している。 |
| 86 (33) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | | 夕食後は(夜間)歯ブラシ・コップの消毒をしている。 |
| 87 (34) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | | 食事量・水分量は毎日個人記録に摂取量を記録。 |
| 88 (35) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | | 職員全員が学べるように準備している。(夜勤の時など個々に学ぶ) |
| 89 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | | 食器は食器乾燥機にて乾燥、消毒液も用途に分け使い分けている。(タオル・ふきん)(食器)(トイレ)(居室・一般掃除用)など。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|---|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 90 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関前の花壇には入居者と園芸部が季節の花を植え、椅子も置いて休んで頂けるようにしている。冬場以外、玄関の扉も大きく開け、気軽に立ち寄り、声かけをして頂いている。 | 通りすがりの方に花の苗や野菜の苗を頂き、また作り方や育て方のアドバイスを頂く。 |
| 91 (36) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 季節の飾りを取り入れ、花えを生けたり、工夫している。冬場は暖かい南西にソファを置き、夏場は涼しい場所へ移動している。 | 気分転換の為に、時々、家具などの配置を替えている。 |
| 92 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | それぞれの場所にソファや椅子を置いて、自由に過ごせるようにしている。 | 場所が狭い為、理想的な配置には出来ないが、いろいろ工夫している。 |
| 93 (37) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 自宅で使用されていた、タンス・イス・テーブル・鏡台などを持ってきて来られている。また仏壇も持ってきて来られている。 | 出来るだけ、ご自分がこれまで使用されていた物を利用されるように、ご家族にも話している。 |
| 94 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 常に換気には気を配っている。温度調節もこまめに行っている。 | 特に臭いが気になるので、入居者の職員も皆で気を付けている。(消臭剤の使用・清潔の保持) |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 95 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。 | 廊下にはソファ以外に物を置かず、ボーリング遊びをしたり、音楽に合わせて歩いたり、踊ったりしている。台所・食道は狭いが、入居者は上手にお盆を運んだり出来ている。 | 危険だからなるべく広くしようと思っていたが、狭いところも用心深く、日常生活には支障が無いと分かった。低い段差には注意！ |
| 96 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 個々に対応すれば、納得して、力を活かせる。常に「何かお役に立ちたい」と言っておられる。 | 自分が「帰りたい」と言っても、他の人が同じように言い始めると、「あの人おかしいね」と言って自分は言わなくなる。個別に対応すれば、緩和する。個別対応の時間を増やす。 |
| 97 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 外回りやベランダには花や野菜を作っている。盆栽も楽しめる。 | 花壇や畑の水撒きなどは入居者がすすんでする。 |

| 項目 | | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | |
|-----------------|--|-----------------------------|---------------------------|
| . サービスの成果に関する項目 | | | |
| 98 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの | 利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない |
| 99 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 | 毎日ある たまにある | 数日に1回程度ある ほとんどない |
| 100 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 101 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 102 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 103 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 104 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 105 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 | ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと | 家族の2/3くらいと ほとんどできていない |
| 106 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 | ほぼ毎日のように たまに | 数日に1回程度 ほとんどない |
| 107 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | 大いに増えている あまり増えていない | 少しずつ増えている 全くいない |
| 108 | 職員は、生き活きと働けている。 | ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが | 職員の2/3くらいが ほとんどいない |
| 109 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが | 利用者の2/3くらいが ほとんどいない |
| 110 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが | 家族等の2/3くらいが ほとんどできていない |